

ドリフト低減に向け水稲用微粒剤Fの効果を検討

平成18年5月に施行されたポジティブリスト制度に伴い、以前にも増して、周辺農作物に農薬が飛散しないようドリフト対策が重要となっています。

水稲の中後期防除薬剤として使用されているDL粉剤は、風向等で周辺ほ場や周辺農作物にドリフトする可能性があります。そのため、現在、DL粉剤に比べドリフト低減効果の高い微粒剤Fが開発されつつあります。

そこで、当研究所では日本植物防疫協会の委託試験として、水稲のいもち病ほぼらみ及びウンカ類・ツマグロヨコバイに対する防除効果を検討するため、穂孕期の7月31日に微粒剤Fを2剤及び対照薬剤のDL粉剤の1回目の散布を行いました。

今後、出穂期に2回目の散布を行い、防除効果を調査する予定です。



微粒剤Fの散布状況



DL粉剤の散布、ドリフトの状況